

研究開発課題事後評価結果

事業名（領域名）	次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業（RNA 標的創薬技術開発）
事業年度	令和3年度～令和7年度
公募研究開発課題名	新規 RNA 標的医薬品の研究開発
研究開発課題名	新規 RNA 標的医薬品の研究開発
代表機関名・役職名	岐阜大学・教授
研究開発代表者名	上野 義仁

【評価結果】

良い／総合的に計画した成果が得られた

【評価コメント】

核酸合成と糖鎖合成の専門家が連携して数多くの誘導体を合成し、その薬理活性等々を評価するという効率的な体制で、LNP フリーで細胞内や標的臓器に核酸を送達することを可能とする誘導体を創出していることが評価された。創出した誘導体には血中滞留性や安定性に優れているものも多くあり、今後これらの誘導体を用いてがん治療薬として活用出来るレベルまで研究を進展させることが期待されるが、その際には対象疾患も検討した上で優先順位付けが望まれる。

当初計画にはない追加研究で、がん治療薬シーズとなり得るコンジュゲート核酸も見いだしており、独創的な知見である。今後、社会実装に向けて、作用機序の解明等のステップを着実に進めることを期待する。